

科学技術イノベーションの  
創出に向けて

# 世界にはばたく 才能を育てる



グローバル化と多様化の波を乗り越えて、日本が「知の世紀」を生き抜くためには、将来を担う若者の理数分野の意欲や能力をさらに高め、科学技術イノベーションの創出に寄与していくことが必要とされる。内閣府が2016年1月に閣議決定した「第5期科学技術基本計画」でも、科学技術に優れた資質を持つ子供たちを伸ばす取り組みの推進がうたわれている。

JSTでは長年にわたり、次世代の科学技術を担う人材育成に取り組んできた。事業は大きく科学技術コンテストへの支援と、初等・中等教育段階での才能の発掘・育成に分けられる。科学技術コンテスト支援事業では、「国際科学オリンピック」などの国際大会へ日本代表生徒を派遣するための費用支援や、大会のブランド力向上をめざした広報活動を行っている。2013年の地理や2016年の地学の日本での国際大会開催、そして2018～23年にかけての5教科の国際大会が日本で開催されることも

相まって、社会にもその重要性が浸透しつつあり、国際科学オリンピック代表選考会への国内参加者数は、どの教科においても増加傾向にある。

一方、後者の主な事業としては、2002年度から継続している「スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 支援事業」や、将来グローバルに活躍し得る才能を発掘し育てる「グローバルサイエンスキャンパス (GSC)」が挙げられる。また従来は、主な支援対象が高校生と一部の中学生までであったところ、今年度から新たに小学5年生から中学生を対象とした「ジュニアドクター育成塾」が始まった。

11月号では、近年注目を集める国際科学オリンピックと新たな試みであるジュニアドクター育成塾にスポットを当てて紹介する。